

桂林寺

桂林寺は曹洞宗の禅宗に属し、かつてこの地域の曹洞宗の中心的な寺院でした。前身は薬師如来を本尊とする寺院でしたが、1401 年に禅宗に改宗したとされています。寺院を尋ねると、訪問者は 1717 年に建てられた印象的な 2 階建ての門（三門）、鐘楼を兼ねた 2 階建ての唐風の門（鐘楼門）を通ることとなります。桂林寺の本堂は 1817 年に作られました。

桂林寺は、過去の僧侶の英雄的な行動のために、2 つの貴重な文化財を所有しています。関ヶ原の戦いのわずか数ヶ月前の 1600 年、石田光成の軍は細川藤孝としても知られる地元の大名である細川幽斎（1534 年～1610 年）の城を包囲しました。藤孝の軍 500 人に対し石田の軍は 15,000 人と非常に多かったが、桂林寺の僧侶たちは細川藤孝の軍勢に加わったのです。藤高が奇跡的に無傷で戦い切り抜けた後、細川家は寺に鐘と涅槃の絵を贈ったのです。これらの貴重な資料は一般的に展示はされていませんが、この鐘は今でも鐘楼にぶら下がっています。

桂林寺は仏教と神道の分離に先立つものであるため、神道における戦いの神を祀る小さな八幡神社もあります。この神社には鎌倉時代（1185 年～1333 年）の物とされる石灯籠が置かれています。